

B型肝炎と予防接種



◆29◆

は、感染しても症状が出ないまま持続感染状態(キャリア)になることが多いと言われて

は、感染しても症状が出ないまま持続感染状態(キャリア)になることが多いと言われて

は、感染しても症状が出ないまま持続感染状態(キャリア)になることが多いと言われて

は、感染しても症状が出ないまま持続感染状態(キャリア)になることが多いと言われて

は、感染しても症状が出ないまま持続感染状態(キャリア)になることが多いと言われて

は、感染しても症状が出ないまま持続感染状態(キャリア)になることが多いと言われて

は、感染しても症状が出ないまま持続感染状態(キャリア)になることが多いと言われて

は、感染しても症状が出ないまま持続感染状態(キャリア)になることが多いと言われて

今年10月から、1歳までの子どもに対するB型肝炎予防接種について、法律に基づき公費助成制度がスタート

不顕性感染で自然に治癒しますが、一部の方では一過性の急性B型肝炎を発症します。

感染から発症までの潜伏期間は約3カ月

で、一般に全身けいぞう、かぜ様症状、食欲不振、悪寒、おう吐(嘔吐)などの症状を発症し、多くの場合、数日後に褐色尿や黄疸を伴います。

通常1〜2カ月で治癒しますが、1%は劇症化し、その約6〜7割は死亡します。

一方、乳幼児の場合、硬変、肝がんへの進行です。

ウイルスに感染した人が1歳未満の場合90%、1〜4歳の場合は20〜50%、それ以上の年齢では1%以下でキャリアに移行し、そのうち10〜15%が慢性肝炎を発症し、さらにその10〜15%が肝硬変、肝がんに行進するとされています。

事例が増えています。首都圏では、遺伝子型Aは1990年代半ばから増加傾向にあり、地方部にも拡大しています(図参照)

▽感染経路 B型肝炎ウイルスの感染は、ウイルスの含

乳幼児期の感染防止を 来月から公費助成開始

▽症状や経過 B型肝炎は、B型肝炎ウイルス(HBV)の感染によって引き起こされる感染症です。

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

公費助成制度がスタート

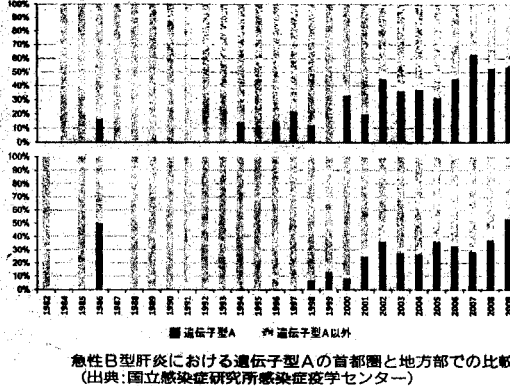
公費助成制度がスタート

県感染症情報センター

B型肝炎ウイルス検査を開始し、1986年にはHBVキャリアから生まれる児を対象として、公費による検査、予防接種および感染予防薬を開始しました。この事業によって、日本の乳幼児におけるHBV感染率は大幅に下がりました。

日本でも法律に基づき公費補助の予防接種を実施することが決まり、今年10月から開始されます。接種年齢が若いほど、良好な免疫応答が得られることや、小児期における水平感染を予防する目的などから、予防接種の対象者は「1歳に至るまでの間にある者(平成28年4月1日以降に生まれた者に限る)」とされています。

公費助成制度がスタート



公費助成制度がスタート